

農林水産業や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築に向け、令和3年度に策定された国の「みどりの食料システム戦略」の推進の一つとして、「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」が始まりました。

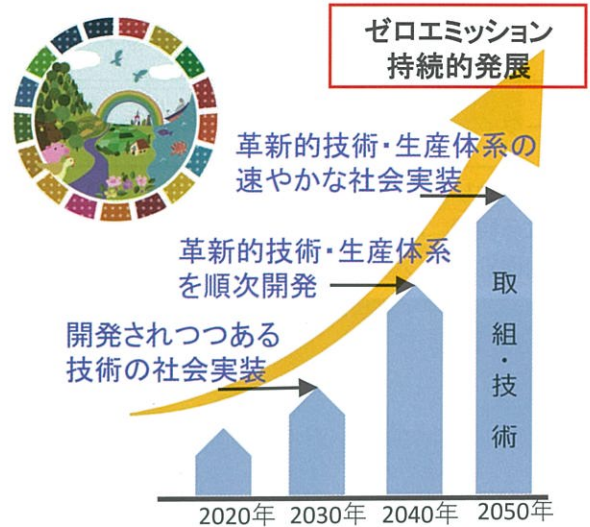
「みどりの食料システム戦略」で2050年までに農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現や低リスク農業への転換【化学農薬の使用量（リスク換算）50%低減】、化学肥料の使用量低減【輸入原料等を原料とした化学肥料の使用量を30%低減】、有機農業の推進【耕地面積に占める有機農業の取組面積を25%（100万ha）に拡大】等に取り組むこととしております。

具体的には、産地のJAや普及組織、農業者、実需者等が参画する協議会を組織し、クリーンな栽培体系の実践に向けた栽培マニュアルの検討や産地内への普及に向けた産地戦略の策定と関係者への情報発信に努めてまいります。

管内では、いちご（施設）やキャベツにおける化学農薬の使用量削減を目的に、「防虫ネット、防虫シート、防草シート、天敵製剤、改良資材」の実証

を行う予定です。

このような取り組みを通じて、それぞれの産地に適した「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する先端技術等」を取り入れた「グリーンな栽培体系」への転換を図ってまいりますので、ご協力をお願いします。



慣行栽培

検証

